

## . 海外経済

		1月	2月
世界経済		<p>世界の景気は、<u>弱い回復が続いているものの、底堅さが増している。</u> 先行きについては、<u>次第に回復力が増していくことが期待される。</u>ただし、アメリカの金融緩和縮小による影響、中国やその他新興国経済の先行き、欧州政府債務問題等に留意する必要がある。</p>	<p>世界の景気は、<u>一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復している。</u> 先行きについては、<u>緩やかな回復が続くことが期待される。</u>ただし、アメリカの金融緩和縮小による影響、中国やその他新興国経済の先行き等について不確実性がみられる。</p>
アメリカ		<p>アメリカでは、景気は<u>緩やかに回復している。</u> 先行きについては、<u>緩やかな回復が続くと見込まれる。</u>ただし、金融緩和の縮小や財政問題への対応による影響等に留意する必要がある。</p>	<p>アメリカでは、景気は<u>緩やかに回復している。</u> 先行きについては、<u>緩やかな回復が続くと見込まれる。</u>ただし、雇用動向等に不透明感があるなか、金融緩和の縮小による影響等に留意する必要がある。</p>
アジア地域	中国	<p>中国では、<u>景気の拡大テンポは安定化しつつある。</u> 先行きについては、<u>緩やかな拡大傾向が続くと見込まれる。</u>また、輸出や金融市場をめぐる動向等に留意する必要がある。</p>	<p>中国では、<u>景気は一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに拡大している。</u> 先行きについては、<u>緩やかな拡大傾向が続くと見込まれる。</u>ただし、輸出や金融市場の動向等によっては、景気が下振れするリスクがある。</p>
	韓国、台湾	<p>韓国では、<u>景気は持ち直しの動きがみられる。</u>台湾では、<u>景気はこのところ持ち直しの動きが緩やかになっている。</u> 先行きについては、<u>次第に持ち直していくことが期待される。</u>また、輸出の動向に留意する必要がある。</p>	<p>韓国、台湾では、<u>景気は持ち直している。</u>先行きについては、<u>持ち直し傾向が続くと見込まれる。</u>また、輸出の動向に留意する必要がある。</p>
	インド	<p>インドでは、<u>景気は下げ止まりの兆しがみられる。</u> 先行きについては、<u>当面、低めの成長にとどまることが見込まれる。</u>また、物価の動向を含め、通貨安の影響等に留意する必要がある。</p>	(変更なし)
ヨーロッパ地域		<p>ヨーロッパ地域では、<u>景気は依然弱さが残るものの、持ち直しの兆しがみられる。</u>ドイツ及び英国では、<u>持ち直している。</u> 先行きについては、<u>次第に持ち直しに向かうことが期待される。</u>ただし、<u>政府債務問題等による金融面への影響を通じ、景気が下振れするリスクがある。</u>また、<u>各国の財政緊縮による影響や、失業率が高水準であること等に留意する必要がある。</u></p>	<p>ヨーロッパ地域では、<u>景気は持ち直しの動きがみられる。</u>英国では、<u>緩やかに回復している。</u> 先行きについては、<u>次第に持ち直しに向かうことが期待される。</u>ただし、<u>政府債務問題等への対応やその影響、失業率が高水準であること等に留意する必要がある。</u></p>